平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	9	ー	56

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	移動販売推進事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	花松賢一
事業の概要	町内商店が扱う食料品・日用雑貨を中心に車両を利用して市街地、郊外地区の居住者に定期的に巡回し移動販売を行う。併せて高齢者等の要望を受けて宅配事業も行い、将来的には、町内飲食店の参加も得て、食事宅配も実施する。			全体計画 ／単年度繰返 （平成 23 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	4,900 千円
					事業費計	4,900 千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～			
	基本施策	4	商工業の振興			
	単位施策	3	住民を支える商店街づくりへの支援			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	650 千円	2,450 千円
	合計	千円	千円	千円	650 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	住民	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	市街地、郊外地区の居住者で交通手段の持たない高齢者、独居老人世帯が増加している現状。	登録会員数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	商工会で実施する移動販売推進事業により、買い物が出来る便利さと、個展経営等の改善が図られることを目指した。	① 登録会員数	目標年度	平成23年度
			目標値	100
			実績値	33
			達成度	33.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	巡回先の住民支援及び商工業者の活力の向上を目指す。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
商工会へ事業費補助	事業費を補助 （買い者に不便さを強いられている高齢者への御用聞き、宅配事業）

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者や商工業者の活力の向上を目指すためにも本事業の補助は必要と判断される。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

課題あり 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 □ほぼ達成 ■下回る	事業開始の遅れと販売形態の変更などがあり、補助事業の推進に支障があった。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

課題あり 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	当初の計画通り進まず、目標値に至らなかった。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る □その他	実施主体である商工会並びに加盟商店の負担があり、又、商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者へ実施している事業なので、公平性は妥当と判断する。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
C	C	
事業内容の変更により、計画通りに行かなかったが、当町における買い者弱者の利便性並びに商店の活性化を図るため必要な事業と考える。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持	**継続／拡充**	
今後は、買い物弱者対策として利便性を更に提供し、会員数の増加と商店街の活性化を図ることが重要であり、本事業の継続は必要です。	同左	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）